

Tell Show Do

島 村 和 宏

歯学部に入學して興味深かったことの一つに、教員のユニークさがあった。高校時代にもとても個性的な先生方がいて、公私共々お世話になり様々な教訓を得たが、歯学部においても同様であった。進學課程時代、小柄な身体はどこから出るのかと思うような大声で、学生の不出来を叱りとばすビール好きの老教授。初めて習う事柄の難しさを新入生と共有しようと、般若心経を誦んじるという全く畑違いな課題を自らに課す気鋭の教員（今も熱い講義を展開中。感謝しています）。理不尽に怒鳴り散らすかと思えば、自らの仕事を後回しにして夜遅くまで学生指導に付き合い、患者さんからの感謝の言葉に共に喜んでくれた臨床教員。多くの教員の言動に悩んだり、喜んだりしながら歯科医師の道を歩んできた。中には「あの人のようにはなれない」と思わせた反面教師の言動も、今の自分にとっては確かに、「ならないため」の参考になっている。色々な教員の言動を“見聞きし”、貴重な“体験”をしてきた。「見る」「聞く」「やってみる」ということで、小児歯科学でいえば「Tell Show Do 法」を応用していることになるだろうか。

今の専門領域に進んだきっかけも、講義や実習での教員の言動によるものだ。ある時、講義中に突然入ってきた若手教員が講義をしていた助教授に何事かささやき、指示を受けて出て行った。聞けば、前日に全身麻酔下で治療した患者さんの容態変化を伝えるもので、現状の確認とその後の対処について指示を出したとのことであった。全身疾患を持つ患者さんの対応は重要でありながら、誰でもが容易にできるわけではないことや、その対応のスマートさに感心して、「歯科」の「医師」を感じた瞬間であった。昔の講義は教科書中心ではなく、教科書は自分で読むもので、講義はそれに関連した内容（ではない人もいた気がするが）を話していた。そんな関連事項の話にも興味をそそられ、自らの講座に誘ってくれた部活の先輩や教授方の言葉を振り切って今の講座に入局した。只管がむしゃらに、いわれるがまま仕事をこなした。時には文句を言って議論し、悔し涙を流したこともあった。少しずつ考えて仕事をするようになってから認められるようになり、今ようやく先輩教員の言葉の意味がわかってきたような気がしている。

翻って今、自分の講義や臨床手技は学生や医局員に興味を与えているだろうかと思、思い悩むことがある。大切だと思っているからこそ、厳しく指導することが多かった。「誰よりも怖い」と言われたこともあった。多くの教員は、昔に比べて格段に増えている種々の業務に対応しながら、教育を担っている。「学生に何とか伝えたい」という思いは届いているだろうか。「面白い」と言ってくれる学生が一人でもいれば嬉しいことである。幸いなことに、興味を示してくれた学生には、その興味を持続させるためにいろいろな話をする機会が得られる。その際に話す内容は、臨床現場での珍しい症例や困難な処置

内容、成功例や失敗例などであることが多い。しかし、その話の裏打ちになっているものは、先人達の経験や行われてきた数多くの研究によって導き出されたものである。

患者さんの口腔内の病状はもとより、全身的な問題点や心理状態、それらを総合して治療中にどう対応すべきか、今後の管理・予防にはどうしたらいいのかなど、悩み考えるべきことは多い。遺伝子解析ができる世の中であっても、一人一人の患者さんについて掘り下げれば、まだまだわからないことだらけともいえる。その中で自ら調べ、考えてよりよい方策をとろうと努力することが大切である。調べたり、考えたりすることは時間もかかり、面倒な時も多い。しかし、そのままにしておいては何も解決しない。さほど考えなくてもできることばかりでは、決して充実感も達成感も得られないであろう。自らを律するのは難しいが、少しずつでも何かについて調べ、考え、まとめていく努力をすることが、先輩教員や今までの患者さんへの恩返しでもあり、これからの患者さんの治療や後輩の指導に役立つことになるだろう。

いつごろどこで読んだものだったか忘れたが、『後悔を先に立たせて後から見れば、杖をついたり転んだり。』という川柳のようなものを覚えている。後悔先に立たず、とはよく言ったものだが、物事を始める前から思い悩んでばかりいても仕方がない。「見聞き」ばかりで考えてしまうようなら、取りあえず「やってみる」いわば「Do」から始めてもよいだろう。

何か一つを見て、調べ始めてみたら、今までより少し面白く感じるようになるかも知れない。「研究」という一見堅苦しい文字や言葉に臆せず、「わからないから、何かを見てみた（あるいは読んでみた）。」というところから始めてもいいだろう。

人に興味を持たせるための最もいい言葉は、「さあ、見てごらん」だと思っている。

(奥羽大学歯学部成長発育歯学講座 小児歯科学分野)